

令和3年度 学生の学修状況に関する調査報告について

【目的】

・本調査の目的は、学生に対する支援と指導のため、日常の学生の学修状況についての基礎的な資料を得ることである。

【方法】

1. 調査対象

・体育学部に所属する全学生を対象として調査を実施した。

2. 調査内容

・「学生の学修状況に関する調査」というアンケートを Google フォームにて作成し、調査に使用した。

・質問内容は以下の通りである。:

- ①基礎的情報： 性別、学年、学科
- ②授業時間以外での自主的な学習時間(1日あたりの平均)
- ③授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間(1日あたりの平均)
- ④大学での学習で最も力を入れていること
- ⑤高校3年時での授業時間以外での自主的な学習時間(1日あたりの平均)
- ⑥高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間(1日あたりの平均)
- ⑦卒業後の進路として最も希望していること

3. 調査の手続き

・調査期間は令和3年7月12日(月)～10月20日(木)である。

・教育企画室アドレスから全学生にメールにてアンケートフォームの URL を配布、期日までの回答を依頼した。

4. 統計解析

・得られた結果は各学年に占める割合(%)で示した。

・各学年、学科および性別と質問項目をクロス集計し、 χ^2 検定を行った。統計的有意確率は5%未満とした。

【結果】

1. 回答率について

・学科学年別の回答者数と回答率を表 1 と表 2 に示した。全体での回答率は 50.7%となった。

表 1 学科学年別回答者数

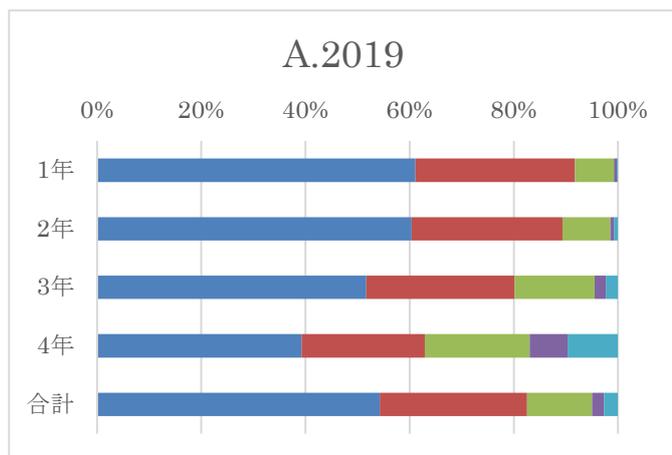
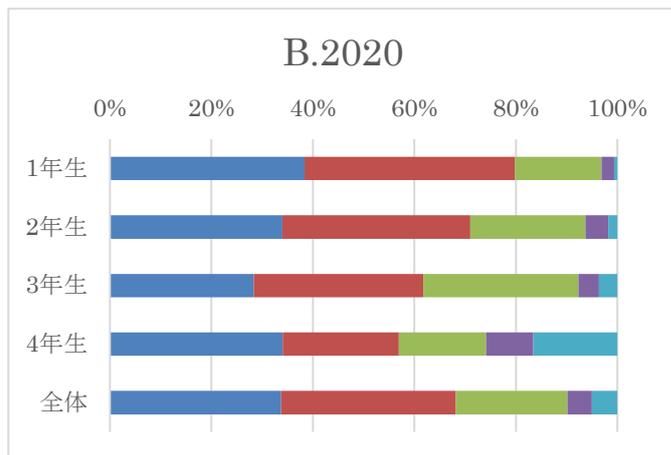
学科	1 年	2 年	3 年	4 年	全体
体育	291 人	168 人	177 人	112 人	748 人
健福	44 人	48 人	44 人	30 人	166 人
運栄	66 人	35 人	30 人	31 人	162 人
ス情	32 人	32 人	17 人	17 人	98 人
現武	30 人	25 人	26 人	16 人	97 人
子教	23 人	12 人	27 人	8 人	70 人
全体	486 人	320 人	321 人	214 人	1341 人

表 2 学科学年別回答率（休学者を含む）

学科	1 年	2 年	3 年	4 年	全体
体育	75.4%	48.8%	51.3%	32.2%	52.6%
健福	57.9%	44.0%	41.5%	28.3%	41.8%
運栄	85.7%	44.3%	37.0%	34.4%	49.5%
ス情	86.5%	65.3%	41.5%	42.5%	58.7%
現武	71.4%	49.0%	52.0%	42.1%	53.6%
子教	79.3%	33.3%	67.5%	17.4%	46.4%
全体	75.1%	47.9%	48.4%	32.0%	50.7%

2. 大学での学習時間と運動時間について

・学年別の自主的な学習時間（授業の予習と復習、資格取得や就職のための勉強など）についての結果を図1Cに示した。30分未満の自主的な学習時間と答えた学生の割合は1年生が2, 3年生と比べて有意に低く、また、3年生は1,4年生よりも有意に高かった。一方、60-120分の学習時間とか答えた学生の割合は2,3年生が他の学年よりも有意に高く、180分以上と回答した学生の割合は4年生が他の学年よりも有意に高かった。また、昨年度（2020年度：図1B）と比較して、1年生の30分未満の学習時間の学生の割合が増加傾向で、一昨年度（2019年度：図1A）までではないが、50%程度であった。



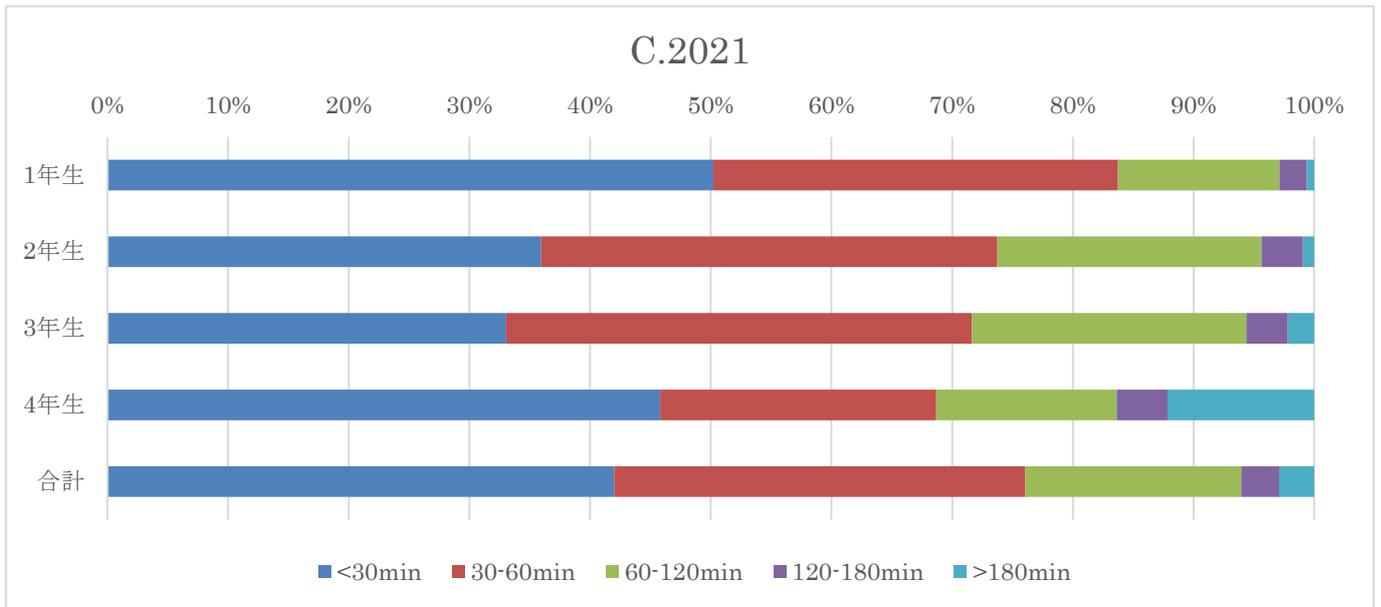


図 1A.1B.1C 一日の自主学習時間(学年別)

・性別の自主的な学習時間についての結果を図2に示した。本年度においても、性別による有意な関連(大きな違い)はみられなかった。昨年度と比べて男女ともに自主的な学習時間が30分未満の学生の割合は増加した。

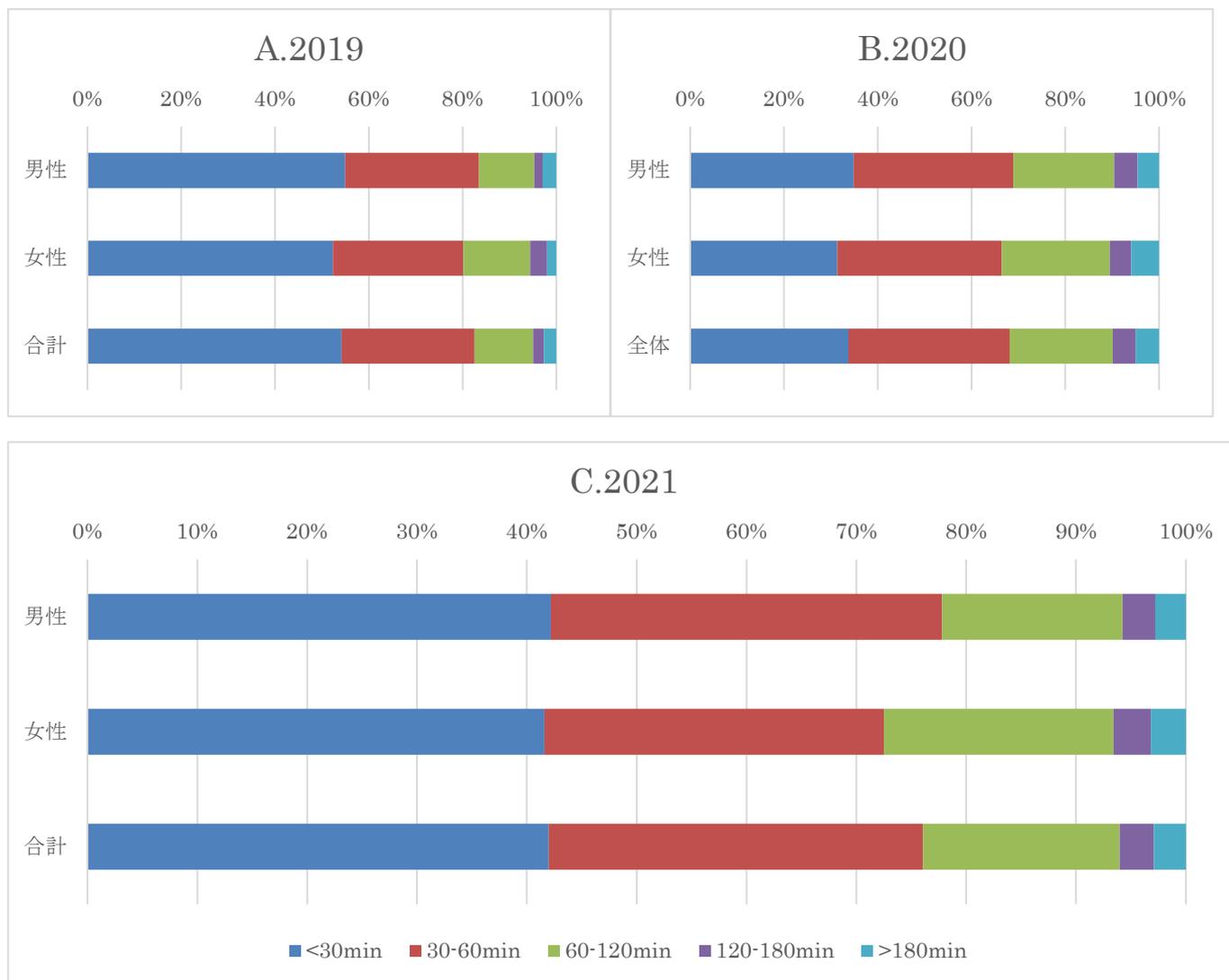


図 2A.2B.2C. 一日の自主学習時間(性別)

・学科別の自主的な学習時間についての結果を図3に示した。2時間以上の自主的な学習の時間を行っている学生の割合は学科間で差はみられなかったが、2時間未満において各学科の特性がみられた。また、各学科において、自主的な学習時間が30未満の学生の割合が昨年度に比べて増加傾向がみられた。



図 3A.3B.3C.一日の自主学習時間（学科別）

・学年別の運動時間についての結果を図4に示した。2年生以上は学年が上がるにつれて運動時間が長い(3時間以上)と回答した者の割合が減る傾向が見られた。また、2時間以上の学生の割合が昨年度の約30%から約50%へと増加傾向がみられた。

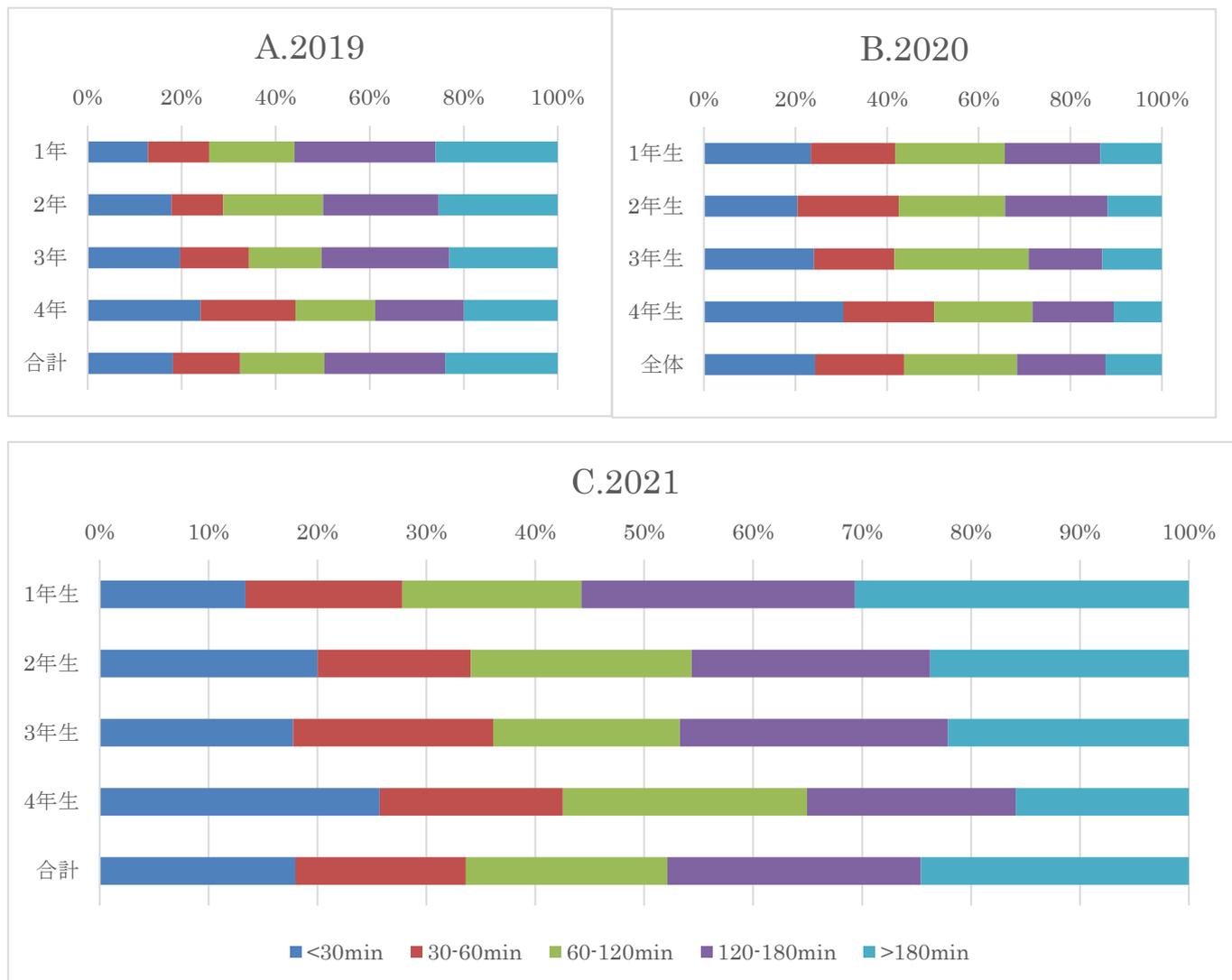


図 4A.4B.4C. 一日の運動やスポーツ活動時間(学年別)

・性別の運動時間についての結果を図5に示した。男女ともに2時間以上運動している学生の割合は5割ほどであったが、女性において男性と比べて1時間～2時間運動する学生の割合が低く、運動時間が3時間以上および30分未満の学生の割合が高く、2極化していると思われる。この傾向は昨年度とほぼ同様であった。

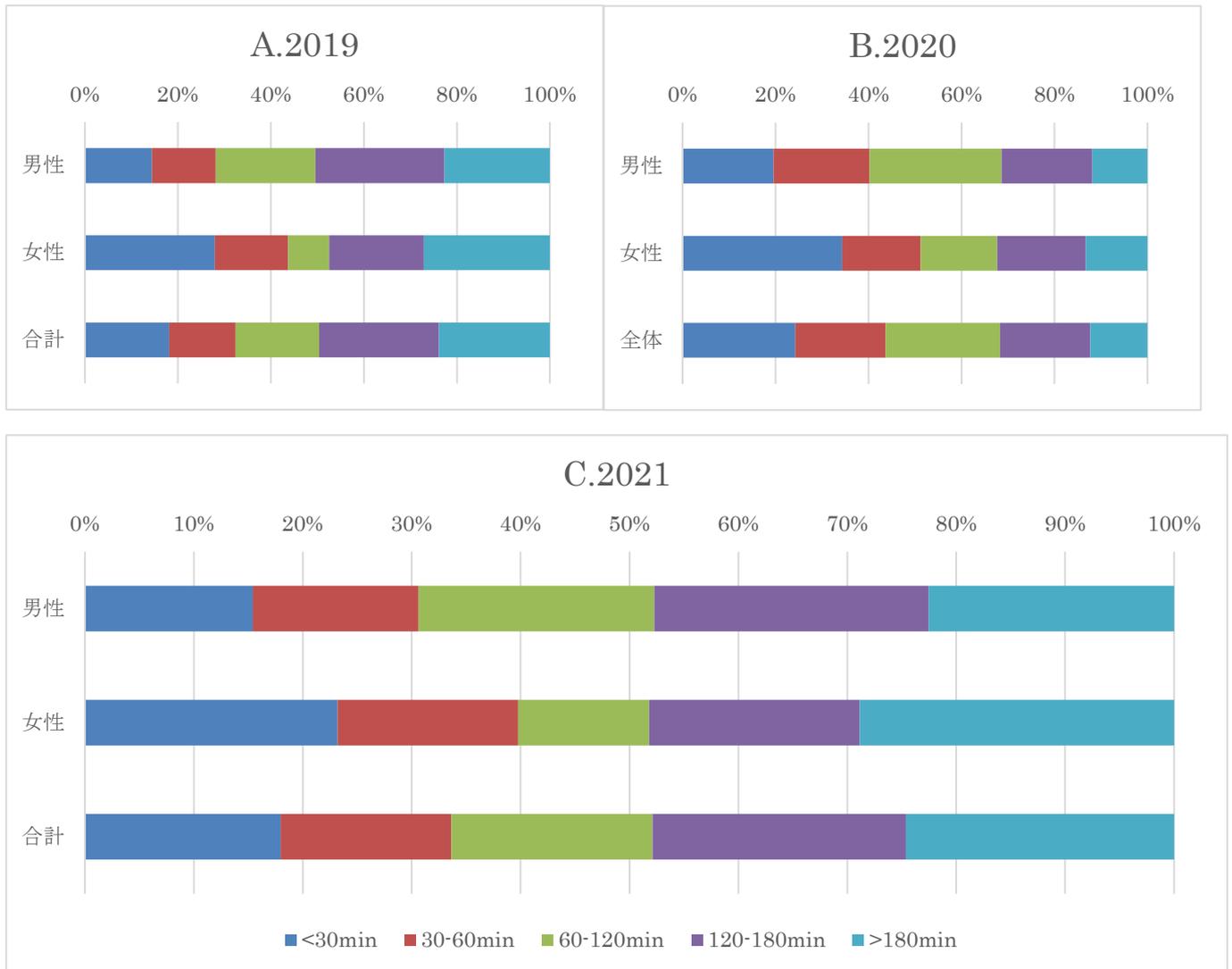


図 5A.5B.5C. 一日の運動やスポーツ活動時間（性別）

・学科別の運動時間についての結果を図6に示した。学科別に比較すると昨年度と同様に学科の特色が出る傾向であった。今年度は、昨年度と比較して2時間以上運動する割合がすべての学科において増加傾向を示し、全体で50%程度であった。

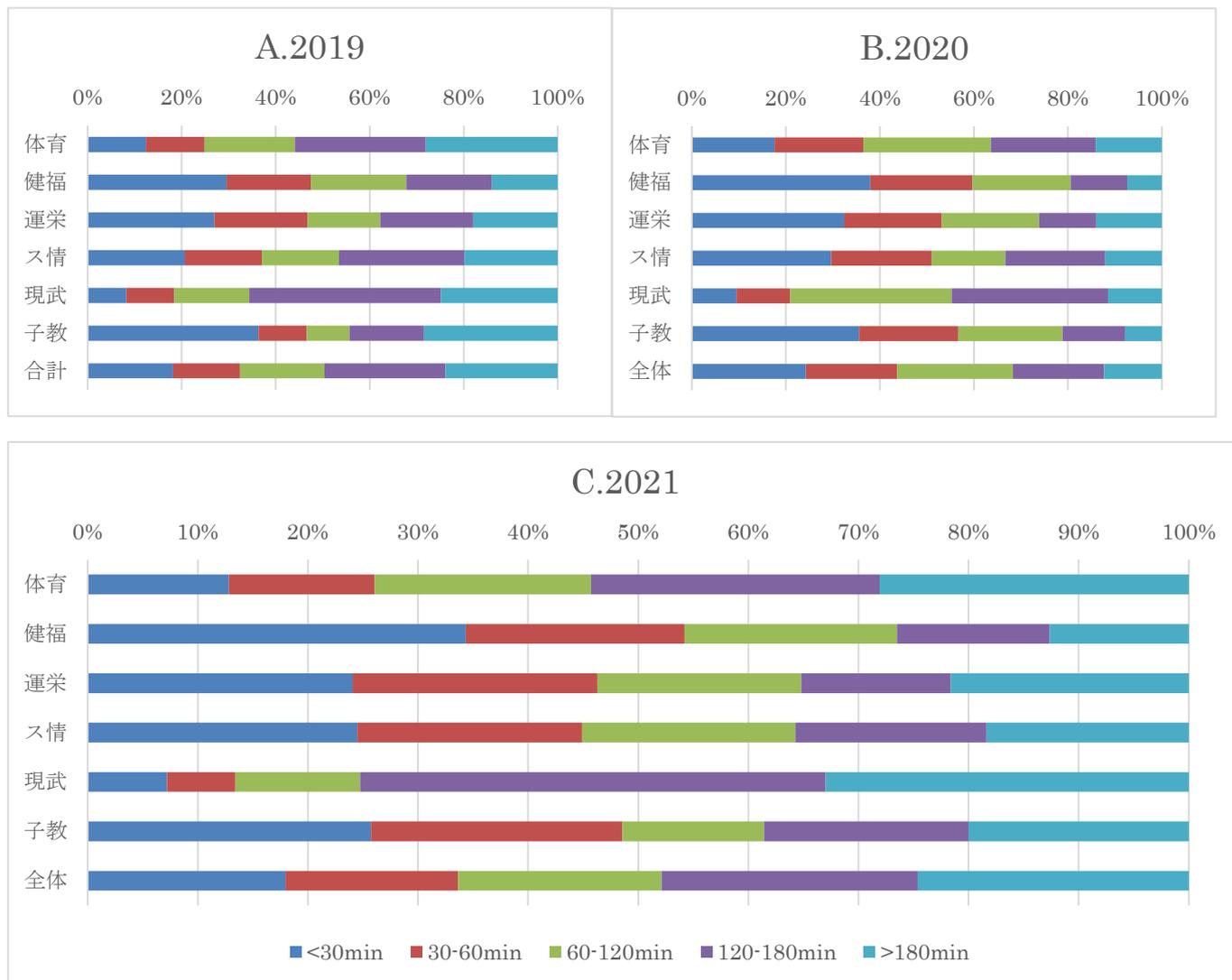


図 6 一日の運動やスポーツ活動時間（学科別）

・大学での学習の目標についての学年別における結果を図7に示した。一年生から三年生までは「専攻する領域に関連する資格・免許を取得する」という回答が最も多いが、学年が進むにつれてその割合は減少する。それに対して「幅広い教養を身につける」という回答の割合は上位学年になるほど大きくなる傾向が見られる。一方、「資格や免許の取得にこだわらず、専攻する領域の専門的な知識や技術を身につける」という回答の割合は学年による違いが小さい。昨年度と同様の傾向の結果であった。その他として「部活動」と回答する学生がみられた。

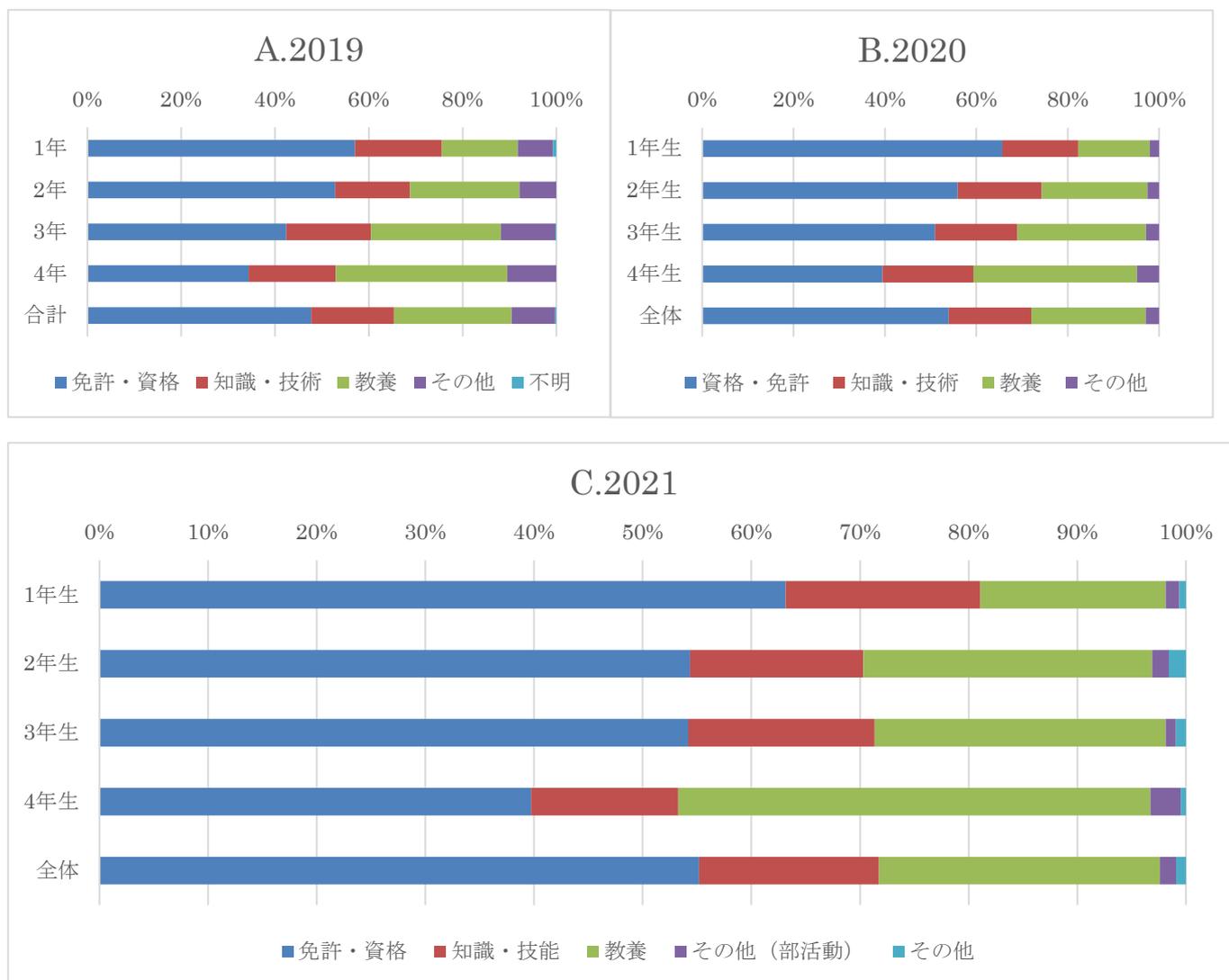


図 7A.7B.7C.大学での学習目標 (学年別)

・大学での学習の目標についての性別における結果を図8に示した。男女とも「専攻する領域に関連する資格・免許を取得する」という回答が最も多く、昨年度と同等であった。特に、女性においては6割以上が「資格・免許」と回答をしていた。それに対して「幅広い教養を身につける」という回答の割合は男子学生の方が大きくなる傾向が見られた。一方、「資格や免許の取得にこだわらず、専攻する領域の専門的な知識や技術を身につける」という回答の割合は男女による違いが小さかった。

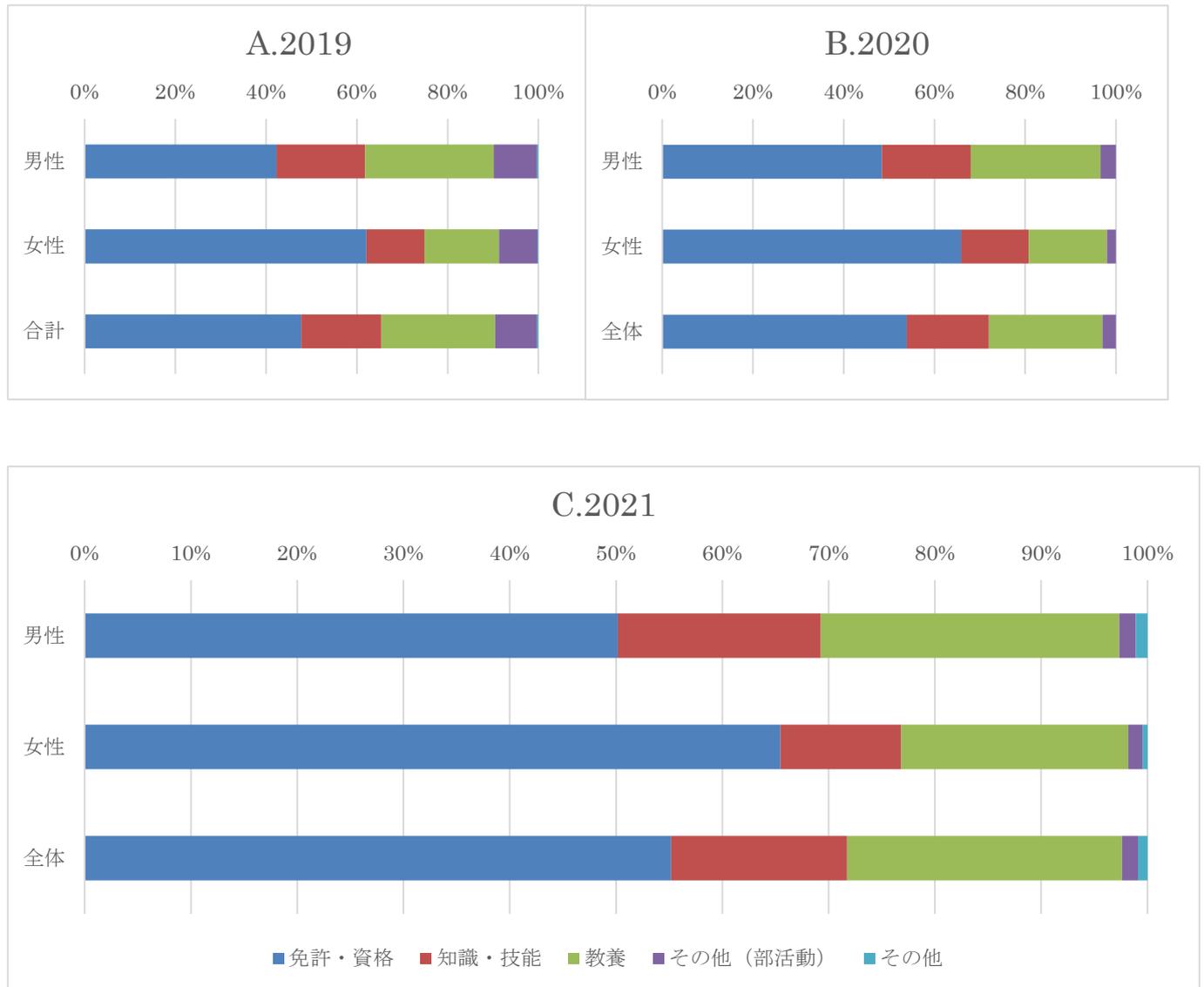


図 8A.8B.8C.大学での学習目標 (性別)

・大学での学習の目標についての学科別における結果を図9に示した。学科によって異なり、ス情以外の五学科では、「専攻する領域に関連する資格・免許を取得する」という回答が50%～80%で最も多かった。それに対してスポーツ情報マスメディア学科は「専攻する領域に関連する資格・免許を取得する」「資格や免許の取得にこだわらず、専攻する領域の専門的な知識や技術を身につけること」と回答した者の割合が同等の傾向が見られ、昨年度と同様の傾向の結果であった。

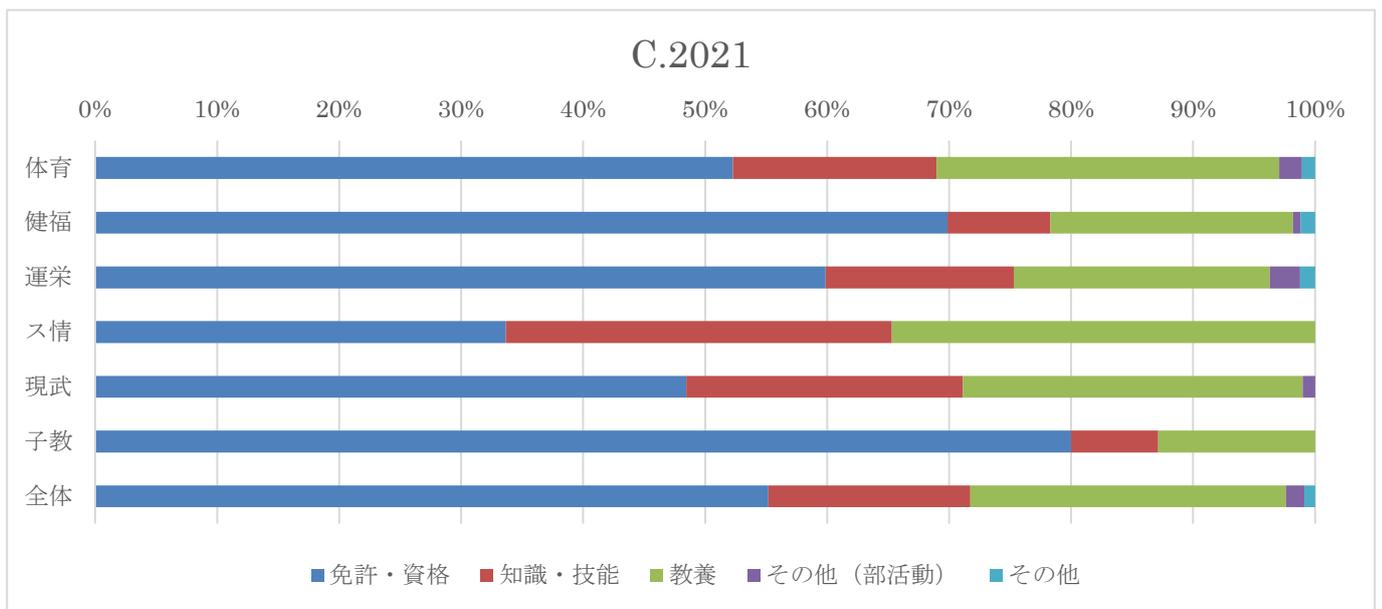
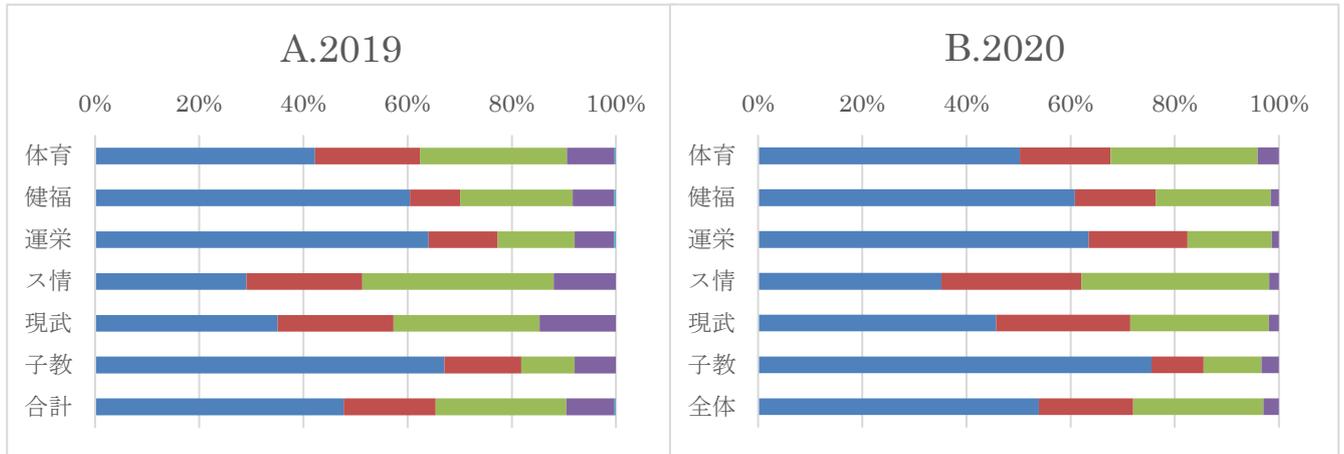


図 9A.9B.9C.大学での学習目標 (学科別)

3. 高校三年時の学習時間と運動時間について

・学年別の高校三年生の時の学習時間についての結果を図10に示した。学年による結果の違いは小さかった。一日1時間以上という回答が約40%、そのうち2時間以上が全体の約20%という結果であった。昨年度と同様の傾向の結果であった。

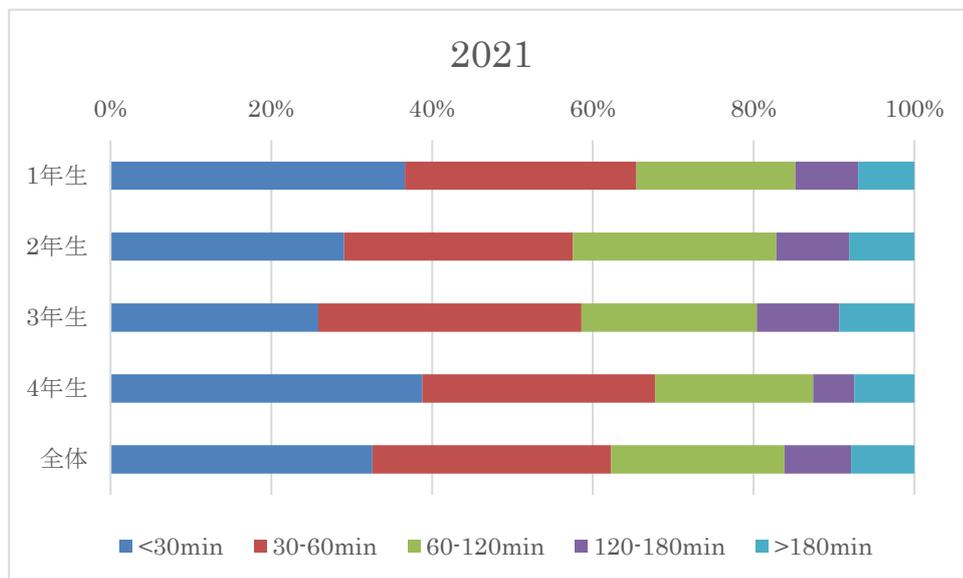


図 10.高校3年時の一日の学習時間（学年別）

・学年別の高校三年生の時の運動時間についての結果を図11に示した。学年による結果の違いは小さかった。平均運動時間が2時間以上という回答が約80%、3時間以上という回答が50%程度という結果になった。コロナ禍による影響がみられると予想したが、昨年度と同様の結果となった。

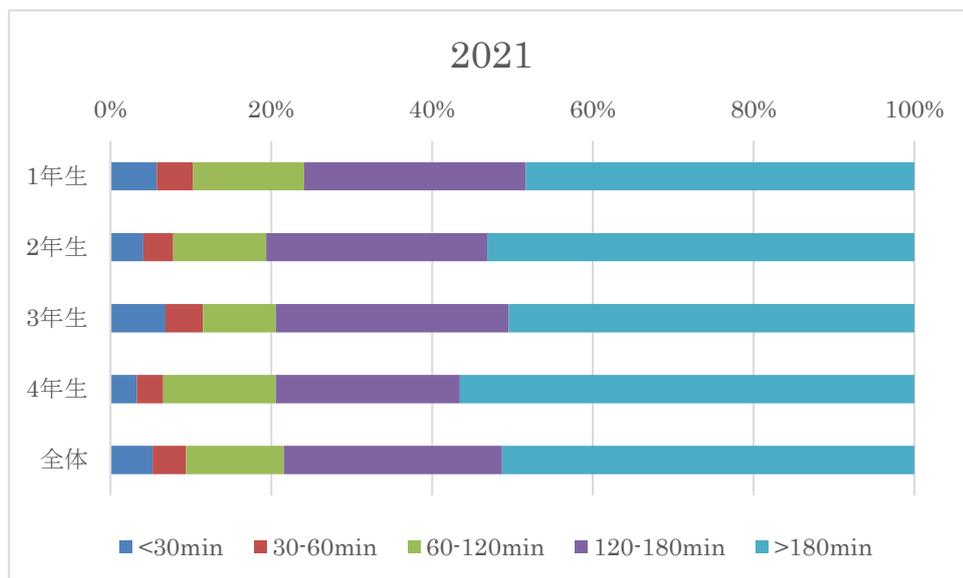


図 11.高校3年生時のスポーツ活動時間（学年別）

4. 卒業後の進路の希望について

・学年別の卒業後の進路の希望についての結果を図12に示した。1年生では「教員あるいは保育士」という回答が50%弱と最も多かった。「教員あるいは保育士」や「スポーツに関わる職業」と回答する者の割合は学年が進むにつれて減少する傾向が見られた。また、いずれの学年においても、「公務員」という回答は比較的多く見られた。これに対して、「一般企業(大学での専攻領域に特にこだわらない)」という回答の割合は学年による違いが見られ、上級学年になるほど一般企業を希望する回答者が多かった。昨年度と同様の結果であった。

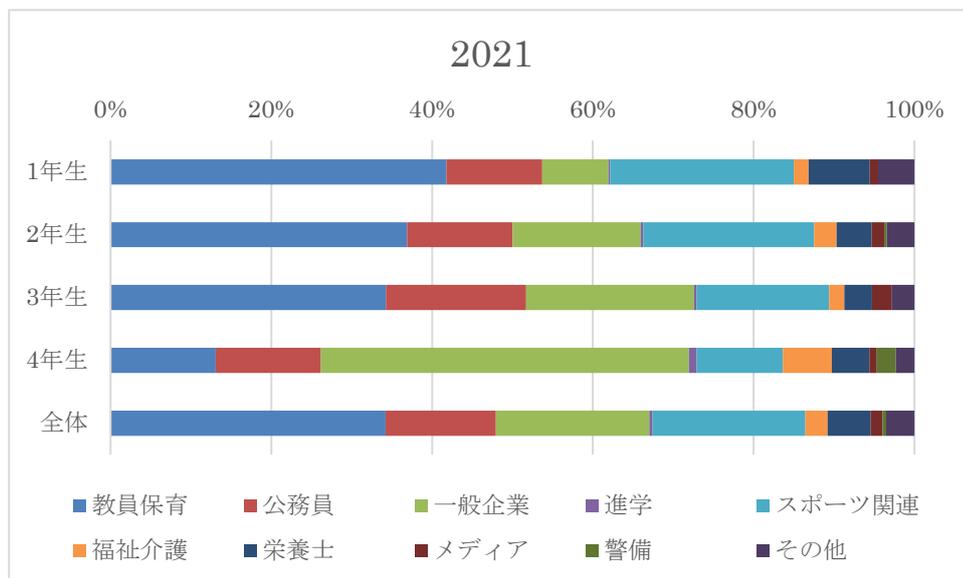


図 12 卒業後の進路希望 (学年別)

・性別の卒業後の進路の希望についての結果を図13に示した。女性では「教員あるいは保育士」という回答が約40%と最も多かった。一方で男性は「教員あるいは保育士」と回答する者が一番多い者の、「公務員」「一般企業」「スポーツに関わる職業」と回答する者の割合が約20%と、性別により卒業後の進路希望が異なる傾向がみられた。昨年度と同様の結果であった。

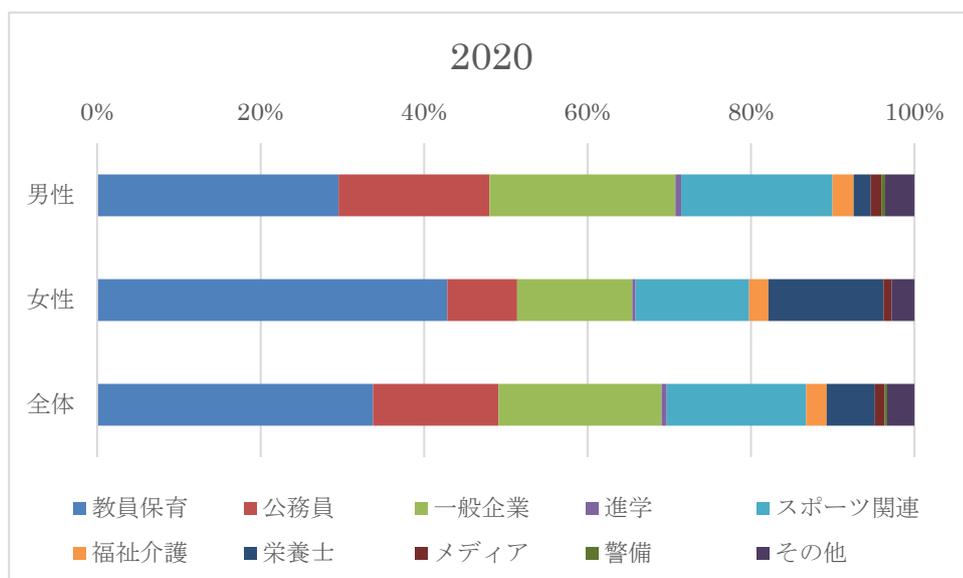


図 13 卒業後の進路希望 (性別)

・学科別の卒業後の進路の希望についての結果を図14に示した。学科により、その学科の特色を反映した結果が見られた。昨年度と同様の結果であった。

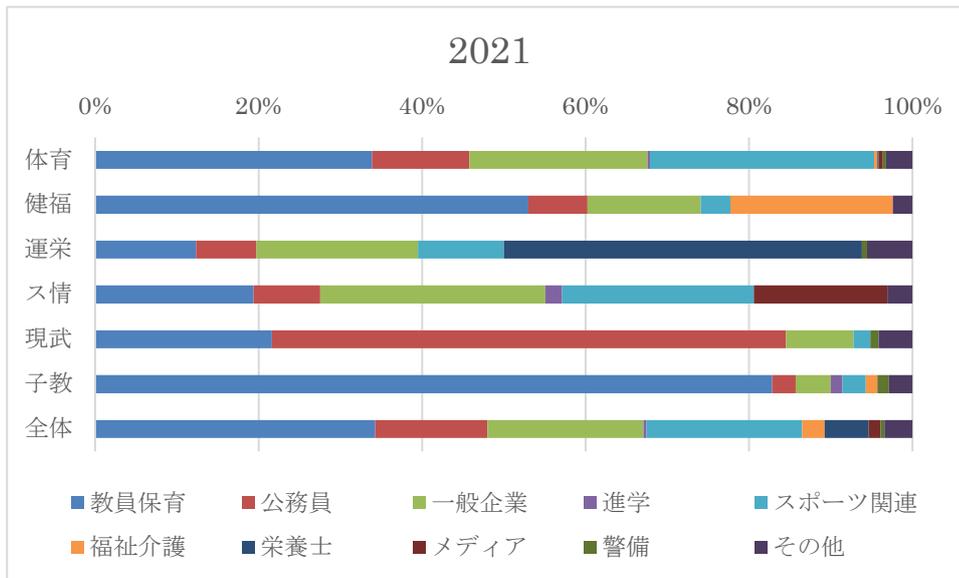


図 14 卒業後の進路希望(学科別)

5. まとめ

- ・回答率が約50%程度であり、データの解釈には注意が必要である。回答した学生は、1年生が多く、学年が上がるにつれて回答率が低下している。このことから、比較的に1年生のデータは信頼できそうであることや、2年生以上はWebアンケートに抵抗が少なく、協力的な学生である可能性が高いことを考慮する必要がある。
- ・全体として昨年度のコロナ禍の影響に比べると一昨年度の状況に戻りつつあると考えられる。四年生で学習時間が相対的に長くなっているのは、教員採用試験など就職対策のための学習の必要性と関連があると考えられる。四年生を除く学年では、一昨年と比べると自主学習時間が長いことから、今年度もオンライン授業による課題によって学習時間が延長したと考えられる。また、オンデマンド配信による繰り返し動画等を視聴できる環境に変わったことによる影響も考えられる。
- ・1～3年生において、1時間未満の運動時間である学生の割合が昨年度に比べ増加した。その一方で、学習時間は昨年度に比べて増加傾向であった。新型コロナやオンライン授業による課題の影響の可能性が考えられる。
- ・1年次には資格や免許の取得を目標とする学生が60%弱と最も多いが、この割合は学年の進行とともに低くなる。それに対して「教養を身につける」ことを重視する学生が増加している。これは昨年度と変わらず、本学学生の特徴としてとらえても良いと思われる。
- ・進路の希望として1年次では教員希望が最も多いが、学年が進むにつれてその割合は減少する。それに対して一般企業を目指す学生が増加している。一方、「公務員」、「スポーツ関連の職業」を目指す学生はいずれの学年においてもある程度の割合見られる。これも昨年度と変わらず、本学学生の特徴としてとらえても良いと思われる。

以上